

自然体験ゲーム ①カモフラージュゲーム

(1) 体験活動上の効果

◎阿蘇の自然に親しむ ◎課題克服・達成感

(2) ESD の課題解決に必要な7つの能力・態度

③人・もの・こと・社会・自然などのつながり・かかわり・ひろがり（システム）を理解し、それらを多面的・総合的に考える力

2 活動の詳細

概要 (セールスポイント)	このゲームでは、視覚を集中させて、自然のものと人工のものとを判別する観察力を養います。 自然の中に人工物であるゴム製のトカゲやカエル、造花など、いろいろな物が隠されているので、探し当てるゲームです。				
諸条件	実施形態	指導必須		提出書類	不要
	必要経費	指導員1人につき5,000円		所要時間	1.5時間程度
	活動場所	野外調理場周辺		対象・人数	幼児以上 30人程度まで
	事前下見	なし	実施時期	通年	天候
準備するもの	青少年交流の家で貸し出し可能な物			団体で準備する物	
	<ul style="list-style-type: none"> ・隠すもの ※ゴム製のトカゲやカエル、造花 プラスチック製の木、布製のひも 等 【留意事項】 ・自然環境への配慮 →草花、樹を大切にします。 ・実地調査による安全性の確認 →危険な植物・昆虫・動物等 			<ul style="list-style-type: none"> 【参加者】 ・運動に適した服装 ・運動靴・帽子・軍手・水筒 等 【指導者】 ・参加者に準じた服装等を準備 ・救急用品 ・携帯電話・笛 等 	
内容	内容			備考	
	<ol style="list-style-type: none"> 1 活動場所に集合したら、2つの組にグループを分ける。(隠すグループと見つけるグループ) 2 一方のグループが、あらかじめ決められた範囲にゴム製のトカゲなどを隠す。 3 隠し終わったら、もう一方のグループが隠し場所に行き、隠されたものを見つけ出す。 4 時間がきたら、見つけたものを持って集まる。 5 隠したグループと見つけたグループが入れ替わる。 <p>※ 3の隠されたものを見つける場面では、グループではなく、個人でチャレンジすることができます。隠された場所に黙って移動し、何をいくつか見つけたかを記録します。その後、答え合わせをします。</p>			<ul style="list-style-type: none"> ・全部見つかっていない場合は、もう一度探す。それでも、見つからない場合は、隠したグループに教えてもらう。 	

3 活動のふりかえりのポイント

視 点：「生き物の擬態や保護色について楽しく学ぶことができたか。」

発問例：「探すことが難しく感じたのはなぜだろうか。」

4 SDGsで目指す姿

 <p>4 質の高い教育をみんなに</p>	 <p>15 陸の豊かさも守ろう</p>	<p>15.4</p> <p>2030年までに持続可能な開発に不可欠な便益をもたらす山地生態系の能力を強化するため、生物多様性を含む山地生態系の保全を確実に行う。</p> <p>ゲームをとおして生き物や自然の不思議に気づき、生態系や自然を大切にしていることとする姿</p>
---	---	--

自然体験ゲーム ②目かくし列車ゲーム

(1) 体験活動上の効果

◎阿蘇の自然に親しむ ◎課題克服・達成感 ◎仲間づくり・協調性

(2) ESDの課題解決に必要な7つの能力・態度

③人・もの・こと・社会・自然などのつながり・かかわり・ひろがり（システム）を理解し、それらを多面的・総合的に考える力

2 活動の詳細

諸条件	実施形態	指導必須			提出書類	不要
	必要経費	指導員1人につき5,000円			所要時間	1.5時間程度
	活動場所	野外調理場周辺			対象・人数	幼児以上 30人程度まで
	事前下見	なし	実施時期	通年	天候	晴天時
準備するもの	青少年交流の家で貸し出し可能な物				団体に準備する物	
	<p>・途中の通過ポイントの目印(番号札等) ※番号札を取り付ける間隔は、5m~8m</p> <p>・スタートとゴールの目印(コーン) ※ゴール地点を決めたら、スタート地点から通過する順番を示した番号札を立ち木に取り付けておく。</p> <p>・ゼッケン</p>				<p>【参加者】</p> <p>・運動に適した服装</p> <p>・目かくし用のタオル(人数分)</p> <p>・運動靴・帽子・軍手・水筒 等</p> <p>【指導者】</p> <p>・参加者に準じた服装等を準備</p> <p>・救急用品</p> <p>・携帯電話・笛 等</p>	
内容	内容					
	<p>1 一番後ろの案内役は、人の「ことば」を話すことができないので、いろいろな合図(止まれ、まっすぐ進め、左に曲がれなど)をグループで話し合って決める。</p> <p>2 全員が一列になって前の人の両肩に手を置き、列車のようにつながる。 ※ 一番後ろの人以外は目かくしをする。</p> <p>3 一番後ろの人は列車の案内役になり、適切な指示を与えながら通過ポイントまで仲間を動かす。</p> <p>4 先頭の人が番号札の付いた立ち木に触れて通過ポイントに着いたら、案内役を交代する。 ※ できるだけ全員が案内役になれるようにする。 すべての通過ポイントをへてゴールしたら終わる。</p>					



3 活動のふりかえりのポイント

視 点：「五感を使って自然を楽しみながら、仲間と協力して活動することができたか。」

発問例：「案内役の時に心がけたことは何ですか。」「目以外から感じたことはどんなことでしたか。」

4 SDGsで目指す姿

 <p>4 質の高い教育をみんなに</p>	 <p>15 陸の豊かさも守ろう</p>	<p>4.8</p> <p>子ども、障害及びジェンダーに配慮した教育施設を構築・改良し、すべての人々に安全で非暴力的、包括的、効果的な学習環境を提供できるようにする。</p> <p>日頃の生活においても、仲間に対して優しく接し、誰とでも協力をしていこうとする姿</p>
---	---	--

自然体験ゲーム ③草原のレストランゲーム

(1) 体験活動上の効果

◎阿蘇の自然に親しむ ◎課題克服・達成感

(2) ESD の課題解決に必要な7つの能力・態度

③人・もの・こと・社会・自然などのつながり・かかわり・ひろがり（システム）を理解し、それらを多面的・総合的に考える力

2 活動の詳細

概要 (セールスポイント)	このゲームでは、想像力を働かせながらより深く観察する目を養います。自然のものを使って、「エビフライ」「からあげ定食」など、食べたいメニューを完成させます。					
諸条件	実施形態	指導必須		提出書類	不要	
	必要経費	指導員1人につき5,000円		所要時間	1.5時間程度	
	活動場所	野外調理場周辺		対象・人数	幼児以上 30人程度まで	
	事前下見	なし	実施時期	通年	天候	晴天時
準備するもの	青少年交流の家で貸し出し可能な物			団体で準備する物		
	<ul style="list-style-type: none"> のり、粘着テープ、ガムテープなど たこ糸 課題を書いたメニュー表 【留意事項】 <ul style="list-style-type: none"> 自然環境への配慮 <ul style="list-style-type: none"> ※草花、木を大切にします。 実地調査による安全性の確認 <ul style="list-style-type: none"> ※危険な植物・昆虫・動物等 			【参加者】 <ul style="list-style-type: none"> 運動に適した服装 運動靴・帽子・軍手・水筒 等 【指導者】 <ul style="list-style-type: none"> 参加者に準じた服装等を準備 救急用品・携帯電話 紙皿(人数分)・笛 等 		
内容	内容			備考		
	<ol style="list-style-type: none"> 課題のメニューが書かれたカードを受け取る。 周辺の自然の中から材料を集める。 《注意事項》 <ul style="list-style-type: none"> 落ちていたものを使う。 生えているものを折ったり、抜いたりしない。 必要以上の材料を取ってこない。 作ったメニューを持ち寄って、苦労した点や工夫した点について、各グループで発表する。 			<ul style="list-style-type: none"> 安全面を考えて、材料を集める間は軍手を着用させる。 活動範囲を制限する。 作品を解体する時は、自然のものと人工のものに分けて処理する。なお自然のものは元に戻す。 		

3 活動のふりかえりのポイント

視 点：「五感を使って自然を楽しみながら、活動することができたか。」

発問例：「葉っぱを集めるときにどんな手触りがしたり、どんな音が聞こえたりしてきましたか。」

4 SDGsで目指す姿

		<p>15.4</p> <p>2030年までに持続可能な開発に不可欠な便益をもたらす山地生態系の能力を強化するため、生物多様性を含む山地生態系の保全を確実に行う。</p> <p>ゲームをとおして生き物や自然の不思議に気づき、生態系や自然を大切にしていることとする姿</p>
--	---	--

自然体験ゲーム ④マーキングゲーム

(1) 体験活動上の効果

◎阿蘇の自然に親しむ ◎課題克服・達成感

(2) ESD の課題解決に必要な7つの能力・態度

③人・もの・こと・社会・自然などのつながり・かかわり・ひろがり（システム）を理解し、それらを多面的・総合的に考える力

2 活動の詳細

概要 (セールスポイント)	このゲームでは、視覚以外の感覚による自然観察、参加者同士の信頼関係を築くこと学びます。					
諸条件	実施形態	指導必須		提出書類	不要	
	必要経費	指導員1人につき5,000円		所要時間	1.5時間程度	
	活動場所	野外調理場周辺		対象・人数	幼児以上 30人程度まで	
	事前下見	なし	実施時期	通年	天候	晴天時
準備するもの	青少年交流の家で貸し出し可能な物			団体に準備する物		
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 特徴のあるにおいや香りをもつもの。 A 香水や整髪剤など、香りの異なるものを5つ B くだもの・野菜などを5つ (例:りんご・オレンジ・ぶどう・きゅうり・わさびなど) C 活動場所の周辺で手に入るもの3~5つ (例:きのこ・ヨモギ・朽ちた木片など) ○ ハンカチ(または布)10枚程度 ○ フィルムケース 8個程度 (黒い紙や布で中が見えないように覆う) <p>【留意事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然環境への配慮→草花、樹を大切にす ・実地調査による安全性の確認 <p>※危険な植物・昆虫・動物等</p>			<p>【参加者】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動に適した服装 ・目かくし用タオル(人数分) ・運動靴・帽子・軍手・水筒 等 <p>【指導者】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加者に準じた服装等を準備 ・救急用品・携帯電話 ・笛 等 		
内容	内容			備考		
	<ol style="list-style-type: none"> 1 課題のメニューが書かれたカードを受け取る。 2 周辺の自然の中から材料を集めて作成する。 《注意事項》 <ul style="list-style-type: none"> ・落ちているものを使う。 ・生えているものを折ったり、抜いたりしない。 ・必要以上の材料を取ってこない。 3 作ったメニューを持ち寄り、感想を交流する。 4 後片付け 					

3 活動のふりかえりのポイント

視 点：「嗅覚を使って自然を楽しみながら、活動することができたか。」

発問例：「違いが分かりづらかったにおいはや分かりやすかったにおいはありましたか。」

4 SDGsで目指す姿

 <p>4 質の高い教育をみんなに</p>	 <p>15 陸の豊かさも守ろう</p>	<p>15.4</p> <p>2030年までに持続可能な開発に不可欠な便益をもたらす山地生態系の能力を強化するため、生物多様性を含む山地生態系の保全を確実に行う。</p> <p>ゲームをとおして生き物や自然の不思議に気づき、生態系や自然を大切にしていることとする姿</p>
---	---	--

自然体験ゲーム ⑤目かくしトレイルゲーム

(1) 体験活動上の効果

◎阿蘇の自然に親しむ ◎課題克服・達成感 ◎仲間づくり・協調性

(2) ESD の課題解決に必要な7つの能力・態度

③人・もの・こと・社会・自然などのつながり・かかわり・ひろがり（システム）を理解し、それらを多面的・総合的に考える力

2 活動の詳細

概要 (セールスポイント)	このゲームでは、視覚以外の感覚による自然観察、参加者同士の信頼関係を築くこと学びます。 目かくしをした参加者がロープを伝って、みんなで協力してゴールまで進みます。					
諸条件	実施形態	指導必須			提出書類	不要
	必要経費	指導員1人につき5,000円			所要時間	1.5時間程度
	活動場所	野外調理場周辺			対象・人数	幼児以上 30人程度まで
	事前下見	なし	実施時期	通年	天候	晴天時
準備するもの	青少年交流の家で貸し出し可能な物				団体に準備する物	
	<ul style="list-style-type: none"> ・途中の通過ポイントの目印(番号札等) ※番号札を取り付ける間隔は、5m~8m ・スタートとゴールの目印(コーン) ※ゴール地点を決めたら、スタート地点から通過する順番を示した番号札を立ち木に取り付けておく。 ・ゼッケン 				【参加者】 <ul style="list-style-type: none"> ・運動に適した服装 ・目かくし用のタオル(人数分) ・運動靴・帽子・軍手・水筒等 【指導者】 <ul style="list-style-type: none"> ・参加者に準じた服装等を準備 ・救急用品・携帯電話・笛等 	
内容	内容				備考	
	<ol style="list-style-type: none"> 1 目かくしをしてスタートの所に1列に並ぶ。 2 右手でロープをにぎり、五感を使って自然を感じながら、ゆっくり進む。 ・木に触れる。・耳に飛び込んてくる音を聴く。 ・においを嗅ぐ。 3 ゴールに到着したら、触れた木の感想や聴こえてきた音などをグループで発表する。 【指導事項】 <ul style="list-style-type: none"> ・ロープから手を離さないようにする。 ・ゴールするまで、話さない。 ・全員がロープの左側を歩く。 ・ロープの周りに危険なものがないかを事前に確認しておく。 					

3 活動のふりかえりのポイント

視 点：「視覚以外を使って自然を楽しみながら、仲間と協力して活動することができたか。」

発問例：「みんなで歩くときに時に心がけたことは何ですか。」「目以外から感じたことはどんなことでしたか。」

4 SDGsで目指す姿

 <p>4 質の高い教育をみんなに</p>	 <p>15 陸の豊かさも守ろう</p>	<p>4.8</p> <p>子ども、障害及びジェンダーに配慮した教育施設を構築・改良し、すべての人々に安全で非暴力的、包括的、効果的な学習環境を提供できるようにする。</p> <p>日頃の生活においても、仲間に対して優しく接し、誰とでも協力をしていこうとする姿</p>
---	---	--